

女子部のあゆみ

昭和33年卒 片石 千鶴子

この間、世の中は目まぐるしく変化をしてきましたが私たちにとっては、現役女子部員を招待してのOG会が発足した事でした。

女子部員が10人前後もいた時代、苦勞をしながら1人で支えてきた時代、そして今日に至った事の貴重な炎を消してはいけないと、35年卒のOG達を中心となってスタートした事であります。

今年、第5回を迎えますが学生が余裕のある時期である秋に実施をしております。地方在住者も楽しみに参加をして、学生から部の現状報告を聞いたり、昔の思い出話に花が咲き、時のたつのを忘れてしまう程で次回も参加出来る事を願いつつお開きとなる次第です。

体育会の女子はほんの一握の数しかおらず、我が部においても女子をどのように練習に参加させるか、いささかお荷物的存在の様子でしたが、先輩諸氏の暖かい心配りと指導のお陰でインカレ団体2位(私がシングルで負けた為)、リーグ戦優勝、東西対抗および国体出場と華やかなときを過ごす事ができた事に感謝をすると共に御礼申し上げます。

バドミントン人口の拡大と選手育成がお世話になった事への御礼かと自分なりに努めてきたつもりです。プレーをする事を止め(られ)てから10年以上も経過してしまいましたが今でもその気持ちは変わらず持ち続けております。

何ごとにもトライし努力をする、一步一步階段を昇りつめて行くという精神は、部で培われた結果と思っております。

バドミントンよ有難う！

次の周年迄、元気でいられる様に頑張っていきたいと思っております。

昭和41年卒 ヤマンラール・水野 美奈子

慶應義塾体育会バドミントン部創立60周年、卒業生・現役の皆さん方が築き上げた長い歴史である。

女子部員が少なかった時期を振り返って一言という原稿の依頼であったが、我がバドミントン部の女子部員が少なかったのは私の時代だけではなく、常にそのような悩みがあるようである。



私が慶應義塾女子高等学校のバドミントン部の入部したのは1959年の大昔で、バドミントンはまだマイナーな競技であった。1966年に大学を卒業するまでの7年間は、このスポーツがまだ脚光を浴びる前で、部員の勧誘も思うようにいかなかった。しかも体育会に属していることで入部をためらう人も少なくなかった。

そのような状況の中でバドミントンの面白さ、部活動の楽しさ、体育会の良さを自信を持って後輩に伝えることができるようになったのは大学に入ってからであった。女子高での入部当時は練習もつらく、退部届をいつ出そうかとそればかり考えていた時期もあったが、言い出す勇気がなく、ぐずぐずしているうちに気がつくバドミントンや部活動にはまり込んでいた。

7年間女子部を何とか絶やさずに続けられたのは、体育会バドミントン部の育んできた規律と協調を重んじる伝統的雰囲気、先輩のあたたかな叱咤激励、同期や後輩のバックアップあつてのことであった。また女子先輩方の楚々として芯の強い、そして包容力がありながらさっぱりとした雰囲気も慶應ならではのものである。

60年の歳月をかけて築かれたバドミントン部の伝統が、これからも新しい世代に受け継がれ、部活動に携わった人々に充実感と満足感を与えていくことを願ってやまない。

昭和60年卒 米倉 縁

創部60周年おめでとうございます。現役時代に40周年の記念式典を行い、部の長い歴史を実感したのが懐かしく思い出されます。

バドミントンとの出会いは慶應義塾女子高等学校に入学した1978年。運動部を希望していくつかのクラブを見学し選んだのがバドミントンでした。入部しての驚きは体育会の大学生の方がコーチとして熱心に指導にきてくださっていたこと。初心者の多い環境にあつてレベルの高い大学生の試合を見たり練習に参加させていただく機会を多く与えていただき、バドミントンに対する興味も深まっていったように思われます。

体育会女子の部員が少なかったのは先輩方の頃より変わらぬ悩みでしたが、その中にあつては女子同期3人で4年間過ごせ、団体戦で部外より選手調達の心配をしなくてよい恵まれた環境でした。歴代のOGの方から1人でクラブ存続を支えた時代の話しを聞くにつれ「こうして今があるのも先輩方の地道な努力のお陰があつてこそ」との思いを強くしたものでした。

大学時代4年間の活動では、慶早戦で4年間勝ち続け塾長招待に招かれたこと、リーグ戦では3部との入替え戦の危機を経験しながらもなんとか2部で頑張れたこと、そして最後のリーグ戦で2部優勝をあと少しのところ逃したこと、などがいい思い出です。

私達の現役時代は、現在TV等で活躍中の陣内さん等が現役の時代と重なっていた頃でバドミントン人口もだんだん増えていった頃だったと思います。さらにプレイ人口を増やすべく、ウェアの色の規制が緩和されカラフルなユニフォームが増えてきたり、一時期は試合での女子のスコート着用必須(短パンでは試合に出場できない)などというわけのわからないルールが施行された時期もありました。(このルールがプレイ人口増に貢献したとは思いますが・・・)

密度の濃いクラブ活動を続けるのはいろいろたいへんなこともあります。仲間と同じ目標に向かって努力し支援しあうことの尊さと、練習の成果が実って勝つことの喜びはバドミントンを通じて学んだことだと思います。

創部60年来培われた良き伝統が今後も脈々と受け継がれてゆくこと、OB・OGの皆さまの健康を祈りつつ、現役諸氏の活躍に声援を送り続けたいと思います。



平成10年OG会



平成11年OG会



平成12年現役女子